

# 私学の魂

聖セシリア女子中学校・高等学校

## 「生徒をひたすらに大切にしてください」という教えにより“幸せな人を育てる”という理想のもとで日本で唯一、日本人の信者によって設立された、明るくおおらかな「自己肯定感を育てる」カトリック系女子進学校

小田急江ノ島線「南林間駅」と東急田園都市線「中央林間駅」の間に、自然の緑に囲まれたキャンパスを持つ聖セシリア女子中学校・高等学校。同学園はかつて、この大和市に描かれた理想の林間都市開発計画の文教の核として設立されました。日本人の設立によるカトリック学校として、独特のおおらかさと明るさを持つカトリック系女子校であることも同校ならではの魅力です。創立から受け継がれるオリジナルな教科やカリキュラムのもと、豊かな『表現力』と高い『自己肯定感』を育ててくれる同校の教育展開は、日本の教育や大学入試のあり方が大きく変わろうとしている現在だからこそ、いまあらためて注目

すべき私学の教育のあり方についてもいいでしょう。そして今春 2018 年入試から、神奈川県立の公立中高一貫校を志望する小学生にとっても貴重な入試体験となる「グループワーク型 読解・表現入試」というユニークな新タイプ入試を導入し、話題を呼びました。今回は校長の青柳勝先生と入試広報部長の大橋貴之先生にお話を伺いました。



校長の青柳 勝先生



入試広報部長の大橋貴之先生

### DATA

#### 1

#### 聖セシリア女子中学校・高等学校

沿革	1929 (昭和 4) 年	伊東静江により大和学園女学校設立
	1930 (昭和 5) 年	大和学園高等女学校となる
	1932 (昭和 7) 年	大和学園小学校併設 (男女共学)
	1948 (昭和 23) 年	学制改革により大和学園女子高等学校 (全日制普通科) となる
	1953 (昭和 28) 年	大和学園幼稚園を本校内に設立
	1971 (昭和 46) 年	伊東千鶴子、理事長・校長に就任
	1980 (昭和 55) 年	校称を「聖セシリア」と改める
	1993 (平成 5) 年	聖セシリア「学習センター」開設
	1996 (平成 8) 年	アリーナ・特別教室棟完成
	2009 (平成 21) 年	創立 80 周年を記念する
	2010 (平成 22) 年	創立 80 周年「テレサ館」完成
	2018 (平成 30) 年	中学入試に B 方式「グループワーク型 読解・表現入試」と「英語入試」を新設

校長 青柳 勝

所在地 〒 242-0006 神奈川県大和市南林間 3-10-1  
TEL : 046-274-7405  
<http://www.cecilia.ac.jp/>

交通 東急田園都市線「中央林間駅」徒歩 10 分。小田急江ノ島線「南林間駅」徒歩 5 分。

## 先代・伊東千鶴子校長から託された、「生徒をひたすらに大切にしてください」という教えと教育理念

小田急江ノ島線「南林間駅」と東急田園都市線「中央林間駅」の間に位置する学園キャンパスには、聖セシリア女子中学校・高等学校と並んで小学校が、江ノ島線の線路を挟む形で、併設の聖セシリア女子短期大学、モニカ保育園の校地があります。同学園の敷地はいつも豊かな緑で囲まれ、キャンパスには四季を通じて自然の風が吹いています。

そうした環境のなか、同校を訪れた人が共通に口にするのが「雰囲気の良い学校ですね」という感想です。今年で創立 89 年を数えるカトリック系の女子校ですが、他のカトリック女子校とは少し違った大らかさ、自由さも併せ持っている印象です。

「聖セシリアは、おそらく日本で唯一、学内にシスターや神父様という聖職者がいないカトリック校で、外国の修道会を設立にもつ学校ではなく、日本人のカトリック信者であった伊東静江先生という人が設立した学校です。独特のおおらかさがあるとすると、そういう設立の経緯によるものかもしれませんね」と、第 3 代の校長である青柳勝先生はいいます。

「もちろん、いまでは正式なカトリック学校として教会にも認められていますし、新任の先生は宗教研修も受けています。ただ、本校の根っ子にあるのは、半分は、熱心なキリスト教信者であった創立者の伊東静江先生と、2 代目校長の伊東千鶴子先生に受け継がれてきた“伊東教”ともいえる教育姿勢ではないかと思っています。

本校の建学の精神は「信じ 希望し 愛深く」ですが、創立者の伊東静江先生は、『幸せな人』を育てたいという理想を掲げて本校を設立しました。この人として良



高3「教養選択」の「女性史」の授業では、アメリカ人女性の地位・人権についての生徒プレゼンテーション

かった、この人と巡り合えて良かった、この人と一緒にいると気持ちが良い、そんなふうに思ってもらえる人が『幸せな人』だと語っていたといえます。

私自身も若い頃、当時の 2 代目校長であった伊東千鶴子先生に生徒のことで困って相談したときに『ひたすら大切にしてください』と言われたことが非常に強く記憶に残っています。これが聖セシリアという学校の考え方ののだなあ…と感じました。いまでもそういう教育姿勢は受け継がれています」と青柳先生。

創立者である伊東静江先生の父であった利光鶴松という人は、1864（文久 3）年に大分で生まれ、1945（昭和 20）年まで存命だった政治家・実業家で、小田急電鉄の創業者でもありました。「当時、利光鶴松はこの大和の地に、理想の林間都市として壮大な都市開発計画を描いていて、その文教の核として、聖セシリアの前身である大和学園を位置づけていたといえます。創立当初には、新宿から『大和学園女学校』まで直行の特別列車が走っていたと記録されています。いまでもその都市開発計画の名残は残っていて、たとえば中央林間駅は、田園調布のような放射線状の道路が駅を起点に広がっていますし、南林間駅の周辺は碁盤の目のような形で道路が作られています。戦前までは、この地に、スポーツセンターや劇場なども存在していたようです」と、青柳先生は当時の歴史を話してくれました。

こうした壮大な都市計画の一環として設立された聖セシリア女子（当時の大和学園）で理想の教育を行おうとした創立者の伊東静江先生の教育理念を受け継ぎ、現在に語り継いだ 2 代目校長の伊東千鶴子先生は、1990 年代にオウム真理教の事件があったときに、「神様から力を与えてもらい、せっかく優秀な学歴を持つ人たちでも、誤った行動をしてしまうならば幸せな人とはいえません。その力を何のために使えば幸せになれるのかを知っている心の教育を大切にしてください」と語っていたといえます。



休み時間の職員室には生徒がたくさん訪れ、先生方は大忙し！

## 読み取る力、組み立てる力、伝える力、 この3つの力をもつ“幸せな人”を育てる ユニークなカリキュラムとプログラム

1929（昭和4）年に設立された大和学園女学校は、その翌年、大和学園高等女学校となり、戦前から戦中にかけても、一般的な教科以外にも、各専門分野の一流の人を講師・教員に招き、先進的な教育を行っていました。こうした点にも、創立者・伊東静江の描いた理想の教育の一端が表れています。

「その時期には、当時の女学校では珍しい自動車部やライダー部もあったと記録されています。いまでも、本校のカリキュラムにオリジナルの科目が多いのも、創立以来の伝統といえるように思います。

聖セシリア女子では、『読み取る力（読解力）』、『組み立てる力（論理力）』、『伝える力（表現力）』の3つの力を育てることに力点を置いています。これらの力は、2020年以降の大学入試改革でも必要となる力であり、本校では、この3つの力が揃ってはじめて『幸せな人』として生きていける学力になると考えています」と、青柳先生は語ってくれました。

「たとえば、『イングリッシュエクスプレス』という授業は、『英語で自分を表現する』ことを目標としたプログラムで、英語芸術学校マーブルズと連携し、英語で歌を歌い、英語のセリフを覚えて、ダンスも加えて、年2回、英語でミュージカルを行うというものです。英語でのミュージカルを創り上げ発表する過程で、語学力とともに、表現力や協調性を育みます」と青柳先生。

この『イングリッシュエクスプレス』も、英語を通じてひとつの創作課題に仲間と一緒に取り組む『PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）』と理解して良いでしょう。ここでも、やはり2020年以降の新たな



「イングリッシュ・エクスプレス」は、歌やダンス、ミュージカルで「英語で自分を表現する」力や協調性を育むプログラム。



高3『教養選択』の「環境科学」の授業では、チームをつかって話し合い。

大学入試で求められる表現力や協働性、創造性などが養われるに違いありません。

「ほかにも、生徒一人ひとりの興味や関心に応じて、それぞれの知的好奇心を喚起し、学習意欲を高める授業が本校には数多くあると自負しています。一般的な進学校ならば大学受験対策に集中する高3の時期に、『教養選択』という科目をおき、『自然科学史、平和学習、女性史、食生活、詩を読む、環境科学、外国事情、アンサンブル、宗教』などを選択することができます。これらの授業にも、生徒たちは高3の最後まで楽しんで取り組んでいるところが、本校の特色のひとつといえるように思います」と青柳先生。

ちょうど取材に訪れた木曜日の3～4時間目に、この高3『教養選択』の授業が行われていたため、見学取材をさせていただいたところ、どの講座でも活気あるやり取りが交わされ、生徒一人ひとりが、自分で好きな授業を選んで取り組むことの楽しさやモチベーションの高さを感じさせられました。

こうして、生徒一人ひとりをきめ細かく面倒を見る姿勢と、独自のユニークなカリキュラム、サポート体制が、聖セシリア女子の教育の特徴であり魅力であることは間違いありません。

ただし、単にきめ細かなサポートだけではなく、生徒誰もが、思い思いの形で『自己表現』をして、それを周囲に受け止めてもらえる自然な雰囲気が伝統のなかで醸成されていることと、その『自己表現』を通して、一人ひとりの生徒の『自己肯定感』が高められていることが、聖セシリア女子の最も大きな魅力なのではないかと、この日の取材を通して感じることができました。

そういえば、同校の校名にもなっている聖セシリアは、カトリックの聖人のなかで「音楽の聖人」としても知られています。

## 人との関りを円滑にする力を培う 「構成的エンカウンター」プログラムと、 生徒一人ひとりの日常を見守るための 「進路カルテ」

聖セシリアの教育は、89年間培ってきた和やかで家庭的・家族的な校風のもとに中高6年間を過ごすことで、生徒自身が安心でき、ほっとできる。そうした空気のなかで前向きなエネルギーを得ることができる場所でもあるということです。

今年の3月の卒業式のときに行った卒業時の生徒アンケートでも、「6年間の学校生活はどうでしたか?」という問いに、「とても楽しかった(82%)」か「楽しかった(17%)」と答えています。また、「聖セシリアに入学してどうでしたか?」という問いにも、「とても良かった(78%)」か「良かった(19%)」と回答しています。

「こうした学校生活の満足度の高さの背景には、人と

の出会い、人とのつながりが土台にあります。女子だけの環境であることも、はじめのうちは多少のぶつかり合いがあったとしても、同性だけの環境であることで、いったん打ち解けると、あけすけに言い合えて、より深いところでつながることが



聖セシリアでは、この3つの要素を「成長の木」に見立てた学習指導を实践。

ことができます。だから、卒業してからもずっと付き合える友達ができるのですね。

そうして、生涯にわたって人を大切にできることが、幸せな人生の土台になると本校では考えています。私たち教員にとっても、初代と2代目の伊東校長から言われ続けた『生徒(一人ひとり)を大切にしてください。あなたの思いで、その子をきめつけてはいけません。』という教えが、人とのつながりを大切にせる校風を生み育ててきたように思います」と青柳先生は言います。

具体的な教育展開として、私学のなかでも早くから「構成的エンカウンター(=グループ・エンカウンター)」



高3『教養選択』の「外国事情」の授業では、メディアラボで資料作り。

を導入してきたことも、そのひとつです。これは教師と生徒の信頼関係をつくり、生徒同士のコミュニケーションを円滑にしていくための、人間関係づくりを援助する活動(プログラム)です。

同じように、生徒一人ひとりを大切にすると同時に、人とのつながりや信頼感を高めるために、本校では独自の「進路カルテ」を作成しています。

「子どもは本来とても多面的で、人によって見せる顔は違います。たとえば教師にとっても、自分の科目に一生懸命取り組む子は『良い子』と考えがちですが、他の教科の取り組みを見ると、また違ってきますよね。授業中や学習の様子だけを見ているとわかりませんが、クラブ活動への取り組みは、また違ってきます。

です。本校では、かなり以前から、生徒一人ひとりのカルテに、それぞれの教員が見たその子のその日の様子を書き込み、授業の合間の休み時間にも、教員一人ひとりが持つタブレットで確認~共有できるようにしています。いまでこそ、市販のソフトの機能を使って共有していますが、そういう便利なものができるまでは、古くは紙のカルテで、最近までは学内のサーバに共有できるプログラムを立てて、生徒の様子を見



高3『教養選択』の「宗教」の授業では、折りを込めて作品づくり。

守ってきました。

その記録では、生徒の出欠や成績、保護者から伺った家庭での様子、最近の表情まで、それぞれの教員が感じたことを共有しています。個々の教員が、自分の見方や感じ方だけでなく、ほかの教員の見方を知ること、自分の見方を振り返り、ときには反省する糧にもすることができます」と、入試広報部長の大橋貴之先生が説明してくれました。

こうして日々、親身な教師陣によって見守られている生徒たちは、休み時間には大勢が職員室に足を運び、先生方に思い思いの質問や相談を持ちかけて、短い休み時間にも先生方は大忙し。微笑ましくも騒がしいこのひと時が、聖セシリアの学校生活を物語っているかのようでした。

ちなみに同校の職員室は、登下校時や教室間の移動の際には、ほとんどの生徒が室内の通路を歩いていくような校舎設計になっているといえます。これによって、先生方は常に、生徒一人ひとりの表情や様子を見守ることができるようになっています。

## 自分を自由に表現して、それを互いに認め合う その雰囲気は伝統として息づく環境で、 一人ひとりの「自己肯定感」が高まる！

この「私学の魂」の取材に同校を訪れた日、見せていただいた授業や校内の各所の様子からは、聖セシリアならではのひとつの特徴を感じました。

それは、個々の生徒が授業中に作成した美術作品やレポートが、広い廊下脇の壁に、所狭しと掲示され、それを生徒はいつも目にしながら毎日の学校生活を送っています。つまり、クラスやクラブの友達や先輩・後輩の作品を日常的に目にすることで、がんばっている様子も感じることができ、また自分とは違った他の



各フロアの広い廊下の壁には、生徒作品がびっしり飾られている！

生徒たちの感性や作品の技量、才能などを認め合うこともできるということにつながっていきます。自然な「学び合い」ということもできるでしょう。

「これも昔から自然に行われてきたことですね。生徒は休み時間や放課後

には、それぞれ思い思いに好きな場所で、友達と談笑したり、クラブや何かに取り組んでいたりしますので、そういうときにも、こうした生徒作品は何気なく目にするだけで、何か良い刺激になっているかもしれません。各フロアに設置してあるピアノを、自由に弾いている生徒もいますよ」と大橋先生。

そういえば、同校の卒業生の進路のうち、「芸術体育系（音楽・美術・体育など）」の進学者が15%も占めるという理由には、こうした日常的に触れる環境も関係しているように思えます。

もっとも、医療薬学系や自然科学系、総合科学系への進学率も高まっていますが、生徒一人ひとりが自由に、かつ果敢に、各自の目標や将来の夢の達成につながる進路を選んで前に進んでいる様子が伺えます。

この日、見せていただいた高3の『教養選択』の各授業でも、自由に活発に発言や質問を切り出す生徒が多く見られ、聖セシリアで行われている毎日の授業の雰囲気の一端を感じることができました。

なかでも、アンサンブルの授業では、先生の弾くピアノと、生徒によるドラムとチェロの演奏によって、全員が声高らかに歌う、その楽しい歌声に圧倒され、感動させられました。

「そんなふうに、一人ひとりの生徒が、自由に自分を表現して、それを仲間が認めてくれることが、生徒の明るい表情と学校生活への高い満足感、そして自己肯定感の高さにつながっているように見えますね」という編集部からの問いに、校長の青柳先生も入試広報部長の大橋先生も、「そうだとすると嬉しいことですね。ただ、本校の教員にとっては、この雰囲気が当たり前になっていますので、特別なことだとは感じていないのです」と笑顔で答えてくれました。



タブレットで「進路カルテ」を説明してくれた大橋貴之先生。



高3『教養選択』の「アンサンブル」の授業では、中高6年間で鍛えた圧巻の歌声で大合唱！



校内の各所にあるステンドグラスは、当時在校生の父親だった著名なステンドグラス作家の作品。

## 神奈川県立中高一貫校を志望する小学生に、新たな受験機会と私立中への進学の間を開いた、B方式「グループワーク型 読解・表現入試」と「英語入試」！

そして、高校募集を行っていない、いわば「完全中高一貫校」である聖セシリア女子では、今春2018年の中学入試で、首都圏の私立中学校、とくに神奈川県内の女子校では先駆けともいえるB方式「グループワーク型 読解・表現入試」を新設し、同時にB方式「英語入試」も導入しました。

神奈川の県立中高一貫校である相模原中等教育学校と平塚中等教育学校は、ともに「適性検査」に「グループ活動」を課していることから、それらの公立中高一貫校の受験をめざす小学生と保護者から歓迎され、注目される存在となっています。

これによって、従来型の4科・2科いずれか選択のA方式の受験生に加えて、B方式「グループワーク型 読解・表現入試」には48名の志願者から47名が実際に受験に訪れ、1グループ8人によるグループワークを体験し、そのうち36名が合格し、10数名が入学しています。

同じくB方式「英語入試」には13名の志願者のうち9名が受験に訪れ、9名が合格。いずれも英語学習への高い意欲を持った受験生揃いで、嬉しい手応えがあったといえます。

「こうした新しいタイプの入試を新設・導入したことで、従来の受験生とはまた違った小学校生活を送ってきた子どもや、多様なバックボーンを持つ子どもたちと出会うことができました。もともと生徒一人ひとりの多様な個性

を大切にしてきたことが聖セシリアの伝統でもありませんから、そういう多様な受験生の個性や潜在的な資質、才能を見出し、本校のカリキュラム&サポートのもとで大きく力を伸ばしてあげたいと考えています」と、入試広報部長の大橋先生は、その手応えと、この新たな入試での出会いへの期待を語ってくれました。

関心のある方は、同校の「グループワーク型入試体験」にぜひ参加していただくと良いでしょう。

また、そのほかにもすでに、校内にバレエ教室を持ち、バレエに励みながら学習でもしっかりと力をつけたい、という受験生が数多く同校には集まっています。

今年さらには、小学生のバレーボールが盛んな県央エリアの地域性とニーズにも応じて、聖セシリアカップという小学生のバレーボール大会を主催したり、地域の小学生バレーボールのクラブチームに夜間の体育館を開放し、そこに同校のバレーボール部の生徒も参加するなどして、相互の活性化を図っているといえます。

創立者の伊東静江先生の残した「(生徒一人ひとりを)ひたすらに大切にしてください」という教えをいまに受け継ぐ同校が、地域の小学生に広く門戸を開いて、出会いの機会を広げたいという意味で、まさに“本領発揮”の 때가訪れたように感じます。

聖セシリア女子中学校・高等学校

 東京都調布区中央林院 徒歩10分  
 小田急江ノ島線「東林院」徒歩5分

B方式グループワーク型入試対象 学校説明会 ホームページよりご予約ください！

## グループワーク型入試体験

B方式入試において「グループワーク型 読解表現入試」を実施します。そこで、保護者の方には教育内容の説明を、小学生には「グループワーク体験」を行います。B方式入試をご検討の方はぜひご参加ください。

2019年

1月12日(土)

10:00~11:30

ご予約は  
こちらから→  
12/17(月)まで  
受付開始!

※12月17日(月)は12月16日(日)に開催いたします。定員に達した場合は、最終締め切りとなります。  
 ※入場料はご不要です。3,000円に満たない場合があります。  
 ※お子様の保護者様はご一層でも、保護者様のお名前を必ずお書きください。